

遠くでネットワーク

発展性のあるベンチャー企業に投資し、キャピタルゲイン（株式値上がり益）を得るベンチャーキャピタル（VVC）。日本のVVCのほとんどは銀行や証券系の法人だが、昨年十一月に投

タリストになった。

「法人のVVCはリスクを恐れ、企業が立ち上がるときから支援するのはまれ。一方、個人だと柔軟で大胆な運営が可能で、企業のスタート時からバックアップし、経営にも積極的に参画できるんです」

大手企業から集めた三億三千万円の出資金を元手にコンピュータソフト開発会社など四社に資金を投入、うち二社で取締役を務める。全国の起業家から投資の依頼が絶えず多忙を極めるが「活力ある企業を一

由主義経済を支えるのは起業家。それを支援するVVCに将来性を見いだした」

と、卒業後は野村証券系のVVCシャフコに入社。昨年の四月に退社するまで、在社十四年間に投資した企業は二十社。そのうち十社が株式公開し、約二百億円のキャピタルゲインを稼いだ。「有望企業を発掘するため、五千人以上の起業家と会って事業計画を聞き、投資した企業には毎週出向いて昼夜の区別なく協力した。徳島の田舎で培った根性のおかげ」とほほ笑む。

「先進国では人口十万人につき、成功するベンチャー企業が十年に一社生まれている。八十万人の徳島だと、優良企業が一年ないし二年に一社出てきてもおかしくない」

先見性ある企業発掘

村口和孝さん

ベンチャーキャピタリスト



過疎地の若者を声援

資事業有限責任組合法が施行され、個人が運営する投資組合が認められた。ベンチャービジネスの先進国アメリカでは「ベンチャーキャピタリスト」と呼ばれる個人がVVCを運営するのが一般的。村口さんは新法が

社でも多く生み出すのが私の使命。先見性のある企業をどんどん発掘したい」と目を輝かせる。

慶応大では経済学を専攻。二十年前に「計画経済は崩壊する」と予測し「自た。

施行されると同時に「日本テックノロシーベンチャーパートナーズ投資事業組合」（東京・本郷）を設立、日本人初のベンチャーキャピ

むらぐち・かずたか氏 海部郡海南町出身。富岡西高から慶応大経済学部卒。1984（昭和59）年にVVCシャフコに入社、東京投資本部などでベンチャー企業の支援事業に従事。98年4月に退社し、11月に日本初の投資事業有限責任組合を設立。東京都大田区在住。40歳。